

研究構想シート		学校名	隠岐の島町立有木小学校
		氏名	吉田 加奈
A 研究主題		豊かな心と確かな力を身につけるための主体的・対話的で深い学びの追及 ～ICTを活用した実践を通して～	
B 研究の目的 授業のねらいを達成していくために、主体的に取り組みたくなるような題材を提示し、対話的な活動を仕組むことで、より深い学び向かうための授業づくりを実践し、授業改善に役立てる。			
C 子どもの実態 ・34年・56年は、複式学級であり、昨年度までは算数のわたりを行っていたが、今年度はわたりは解消され、国語と算数は共に学年別指導になった。 【低学年】 ・「いいと思います」「同じです」などは言っている。 ・1年：自分の考えを伝えているだけで、話し合い活動になりにくい。 ・2年：自分の考えを発表することはできるが、自分から質問することは難しい。 【中学年】 ・ガイド学習を進めることはできる。 ・話し合い活動において、反応が薄い。 ・アプリを使った簡単なプレゼンテーションはできる。	E 手立て・内容（研究仮説） ・相手意識・目的意識をもたせ、必然性のある課題や協働して解決できる課題に取り組ませる。 ・自分事として課題を捉えさせ、対話が深まる活動に取り組んでいくことで、授業者の授業改善を行うことができるであろう。	D めざす子どもの姿 【主体的】 低学年：学習問題（課題）を解決するために、学習の見通しをもつ。 中学年：学習の見通しをもち、学習問題（課題）を解決するためにめあてを立てる。 高学年：学習の見通しをもち、自分達の力で学習の見通しをもつ。 【対話的】 低学年：課題を解決するために、自分の考えを伝える。相手の考えを聞いて、感想をもったり質問したりする。 中学年：課題を解決するために、考えを伝え合ったり、友達と協働したりする。 高学年：課題を解決するために、考えを伝え合い、よりよくなるよう考えたり、様々な立場の人々と協働的に関わったりする。	
【高学年】 ・ガイドを中心に、自分達で話し合い活動を行うことができる。 ・話し合いが深まらないことがある。 ・話についていけない児童がいる。	F 検証方法 ・児童が書いたり、作ったりしたもの（成果物）による検証を行う。 授業者の授業改善について、ビデオ記録なども活用して、成果と課題を年度末に記述する。	【深い学び】 低学年：対話的活動を通して、わかったことやよかったことを振り返る。 中学年：対話的活動を通して、学んだことや自分の成長を振り返る。 高学年：対話的活動を通して、自分なりの見方で考え、学んだことや自分の成長を振り返る。	
		G 研究計画 ※教科の特定はしない。 【1学期】 ・主体的・対話的で深い学びのイメージを共有する。 ・ICT機器に関する研修を実施（校内ICT担当による研修） ・授業実践（7月：吉田） 【2学期】 ・授業実践（9月：錦織/10月：広兼/11月：清水）予定 ※非常勤講師の先生は、相談で日程を決定する。 【3学期】 ・研究のまとめ（授業改善の成果と課題を各自でまとめる）	